



第3回かながわ感動介護大賞

～ありがとうを届けたい～


受賞作品

平成26年

かながわ感動介護大賞実行委員会



かながわ感動介護大賞実行委員会

 神奈川県 | 保健福祉局福祉部高齢社会課
〒231-8588 横浜市中区日本大通1 電話(045)210-4846(直通)

はじめに

介護は、人知れずに家族の中で行われるものではなく、社会全体でなされるもの・
・そのような理念で介護保険制度が約10年前にスタートしました。

しかし、人と人とのふれ合いの中で行われる介護現場のエピソードは、なかなか社会全体に伝わる機会が少ないかもしれません。

今年度で第3回目を迎える「かながわ感動介護大賞」、そのスタートから多くのスポンサー企業、協賛企業、協賛団体、協賛法人の協力を得て実施してまいりました。この多くの皆様とともに、県民の皆様とともに現場の感動介護のエピソードを共有し、まだまだ知られていない介護の魅力を知っていただく場としてこの大賞は大変意義深い場であると云えます。

一つ一つのエピソードから伝わる心温まる貴重な時（とき）を関係者だけではなく、県民の皆様と共有し、介護の現場の素晴らしさをもっと理解していただきたい、そのことにより、社会福祉施設をもっと気軽に利用していただきたい、多くの人が介護職を目標としていただきたい・・・・・

介護のイメージが変わり、皆さんとともに介護が「介護文化」として定着していただきたいと期待しています。

かながわ感動介護大賞実行委員会委員長 篠原 正治

目次

○受賞作品

最優秀賞

優秀賞

自分の足で3階まで歩けた

ニーハオ

いってらっしゃい

先生と呼ばれているの

困難を乗り越えて

今年の干支は？「うま」

優しさに触れて

ヘルパーさんが起こした奇跡

思いやり

見られない嚙下訓練

私とグッデイさんの出会い

真夜中のギックリ腰

介護施設の皆様に感謝

グリーンホームへの思い

心のそよ風

無題

⋮

⋮

⋮

⋮

⋮

⋮

⋮

⋮

⋮

⋮

⋮

⋮

⋮

⋮

⋮

⋮

1

3

5

7

9

11

13

14

15

16

17

18

19

20

21

22

○第3回かながわ感動介護大賞 応募作品の総評	……	24
○かながわ感動介護大賞表彰選考会委員名簿	……	25
○かながわ感動介護大賞実行委員会	……	26
○かながわ感動介護大賞スポンサー企業	……	26
○かながわ感動介護大賞協賛企業	……	26
○かながわ感動介護大賞協賛団体	……	26
○かながわ感動介護大賞協賛法人	……	27

※作品は、応募者の意向を尊重し、ほぼ表現を変更せず掲載しました。



最優秀賞

「自分の足で3階まで歩けた」

児玉 郁子様

感動介護を行った事業所

社会福祉法人大和清風会
居宅介護支援センターサンホーム鶴間

2011年12月、夫と伊豆高原旅行中にホテルで転倒。右手首・右足大たい骨を骨折・頭を強打してしまいました。右も左も分からないところでの事で夫はパニックになり、東京代官山に住んでいる息子を急ぎよ呼び、介護タクシーを利用して居住している大和市に戻り大和市立病院に入院、手術をしました。

手術は上手くいき、担当医師に「貴女は腰がともしっかりしているのでこれからも大丈夫でしょう。手首は自然に治るのを待ちましょう。」と云われ、すぐにリハビリに入りました。しかし強打した頭が中々シャッキリしなかった為、スタツフとしよう突したりして3カ月ギリギリ迄入院しデイサービスを利用する為施設に入りました。施設は自宅の近くにすぐみつきり週二回、訪問介護を一回の生活が始まりました。（介護4の認定でした）

しかし大きな困った事がありました。傷は良くなっているのに頭の方がすつきりせず車椅子全面使用の状態でした。加えて住居がエレベーターの無い三階建の三階で車椅子を使用できず、デイサービスのスタツフがマンションの階段を私をおぶって行き往したのです。又狭いマンションなので家の中で車椅子を使えず家にいる時は、すわりっ切りか寝ている丈の状態になってしまいました。必然的にうつ状態になって

しまいました。

そんな生活を一カ月位続けたでしょうか…ある日デイサービスのスタッフが「見玉さん！マンションの階段を歩いてみませんか。僕が後にびったりついていきますから心配しないで…ダメだったらやめましょう」と云ったのです。おそろおそろ歩き出しました…そうしたら歩けたんです!! 三階迄自分の足で歩けたんです!! 我が家にたどり着けたんです!!

ドアの前に夫が待っていました。信じられないと云う顔で私をみました 「ヤッター！見玉さん!! 歩きましたね バンザイ!!…」

次のデイサービスに行ったら私が歩けた事がスタッフに知れていて、拍手で迎えてくれました。有り難うスタッフの皆さん!! それからの快復は私はもとより家族も施設のスタッフもびっくりびっくりでした。頭の方も徐々にスッキリ！健常者に近くなってきました。

▽講評△

『自分の足で3階まで歩けた』の表題のとおり、この作品は、歩けるに至った喜びがいっぱい詰まっています、まるでドラマを見ているようでした。旅先の転倒事故から入院手術・リハビリへ。退院後のデイサービスもマンションの階段を背負ってもらっての上り下りが続き、家の中では寝たきり状態同様の苦悩と不安の日々…。しかしスタッフの頃合いを見計らった提案で無事階段登頂に成功します。この歩行成功体験、続く体験の共有・受容が快復力を高めていく過程は、“ご本人の力を引き出す” 典型的実践のひとつといえましょう。

優秀賞

「ニーハオ」

倉本 美子様

感動介護を行った職員

SZD商事株式会社
ホームヘルパーステーション寿 郭 桂霞さん

「ニーハオ」と、郭さんは週1回1時間、お風呂を入れに来てくれます。父95歳は、にっこりし、楽しみにしていた中国語の会話が始まります。郭さんは、帰国子女の夫と、日本で暮らし、中国には90代のお父さんがいらっしやるそうで、父のことを、まるで自分の父のように手をやさしくにぎってくれます。家族が介護の愚痴を言うと、「大丈夫、大丈夫。」と言ってくれます。その日本人とちよつと違うイントネーションの言い方に癒されるのです。

父は戦争中、中国に行っており、中国語がしゃべれるのです。もう少し若い頃は、中国人がいる店があると聞けば、行ったりしたものでした。機嫌のいい時は中国語がでるのですが、誰も相手ができませんでした。

郭さんが来るようになって1年以上になりますが、中国語が、じょうずになったと、父もほめられるようになりました。家族には、今2人で何を話していたか郭さんは通訳してくれます。郭さんは、仕事のないう時は日本語を、勉強しているそうで、家族との会話や、毎回の報告書も日本語で書いてくれますので何も問題ないのです。

父の頭の中は戦後すぐのようです。郭さんのおかげで、父も家族も癒されています。93才の母もいますし、デイサービス、ヘルパー、訪看など多勢の方に助けられ2人を介護しています。父母は、義理の両親です。



▽講評△

本県は全国的にも在住外国人の多い県ですが、こうした外国人の方が介護従事者として働く姿を目にすることも、最近では珍しいものではなくなってきました。言葉や文化の違いにより、実践において様々な困難も想定されますが、外国人としての特性を活かした介護実践ができていると評価したのが本事例でした。特に、明るく元気な対応を心掛け、外国語でのコミュニケーションを通じて、利用者本人の生活にも良い影響を与えていることがわかる事例だと感じました。

優
秀
賞

「いってらっしゃい」

門田 ひとみ様

感動介護を行った事業所

株式会社鴨清 フォレストケアサービス

「門田さん。おはようございます。」―「はいはいはい。・・・行ってきます。」
毎朝、玄関から聞こえる会話。数カ月前までは当たり前のことではありませんでした。
義父が認知症と診断され、デイサービスを利用するのはフォレストさんで3件目です。

これまでは途中で帰って来てしまったり、「行きたくない。」と拒んだり。

今回こそと、飛び込んだ体験日、義父は途中帰宅もせず、お風呂も済ませて帰ってきたのです。

今回は何か違うみたい。よし、フォレストさんにお願いしよう。

と、決心して1か月目―気付くと庭の水撒きをしていたり・・・。「ズズズズ」と、すり足のようだった足音は力強くなり・・・。何度も目を覚ましていた浅い睡眠も解消され、朝までぐっすり・・・。

これまで一度も無かった嬉しい変化に私たち家族は驚きました。

変化の秘密は「散歩」です。フォレストさんでは毎日散歩に出かけ、時には近所へ買い物にも連れて行って下さいます。外出の方が室内の活動よりスタッフさんは大変なはず。それでも毎日義父に新しい刺激を下さるのです。

日々の散歩により足元も「心」も安定している義父を見ると、安心して送り出せる喜びを実感します。頼もしい所長さんと、信頼できるスタッフさん達に、本当に感謝しています。これからも義父の大切な時間をお任せしたいと思います。

—今日も義父は玄関でフォレストさんのお迎えを待っています。



▽講評△

認知症の人の介護は、身体的な疲労だけでなく精神的な負担も多いと思います。本作品の中からも、ご家族の苦労が読み取れました。しかし、苦労だけでなく、介護を通して感じとったご家族の喜びと感動も読み取ることが出来ました。

介護は人がひとに対しておこなうことです。介護の質は職員の質そのものといわれています。「これまで一度もなかった嬉しい変化に私たち家族は驚きました」という言葉から、介護の質についても改めて考えさせられた作品でした。

「先生と呼ばれているの」

渡邊 真子様

感動介護を行った事業所

株式会社KEEP UP
リハビリデイサービス ポーラスター 鷗沼

生後間もなく実母を亡くし、祖母に育てられた母は頼る実家もなく、夫の単身赴任も重なり肩肘張って私達兄弟三人を育てた為か、人様のお世話になるのが苦手です。

幾つかの事業所様を見学させて頂きましたが、何でもして下さろうとする折角の職員の方の働き掛けに母は返って戸惑っているようでした。肩を骨折しても私達からカーディガンを着せてもらうのを拒み、自分から「袖を通して。」と言って始めて手伝うのを受け入れるような母です。姉とも相談し「何かして頂くだけでなく、自分が役に立っている。と母が実感できる何かを見つけ出そう。」と思に至りました。

そんな折「ポーラスター」の佐々木様よりお電話を頂いたのです。今までの経緯をお伝えすると「私達は御自身でできる事に一切手出しはしません。漢字のクロスワードパズルも個別のスピードで対応させて頂いています。娘さんが付き添うと御家族の心配が御本人の甘えにつながります。車の送迎時からお任せ頂けませんか。」と爽やかで力強いお言葉を下さいました。

あれから三カ月。母はパズルを通して職員様に漢字を教えて差し上げながら、自分が役に立っていると実感し、時には「先生と呼ばれているの。」と嬉しそうです。車の窓から満面の笑みで手を振る母に「行ってらっしゃい。」と安心して手を振り返せる今、職員の皆様への感謝が、胸一杯に広がっていきます。



▽講評△

「・・・お任せいただけませんか。」、ご家族はこの言葉にさぞかし心強く感じたことでしょう。また、事業所の皆さんの知識と技術、経験に裏打されたサービスに自信があるからこそその言葉と対応が、ご家族の信頼につながったことと思います。

社会で生活する中で役割を持つことは、生活に生きがいや張り合い、その人らしさを実現できる大事な要素です。ご家族は役割を持ったご本人の表情や言動がより良く変わっていく姿に感動されたことでしょう。

優 秀 賞

「困難を乗り越えて」

小林 幸子様

感動介護を行った事業所

社会福祉法人 清琉会 玉川グリーンホーム

寄り添い、共に生きて50年に。主人が平成23年にアルツハイマー認知症と診断されて、平成25年3月介護申請で介護度3と認定される。5月から介護サービス利用し施設に行くことに「なぜ行かないとまらないのか」と言って拒み、徐々に風呂と夜間のトイレ介助が大変になる。

心配しても仕方がない、事が起きた時に対策を考えようと決めて日々を過す。

全介助が必要となり「私も身体疾患があり」体調を崩しショートサービスを利用するがダメージを受けて帰宅する。徘徊と頻尿のため放尿し介助で寝る事が出来ない状況となり、2月病院の受診、介護度見直しで介護度4と認定される。

認知症型グループホームに3月入所するが徘徊と頻尿のため放尿で薬の調整目的で4月入院、5月施設の入所が決まり、病院を退院し施設へ入所暖かく迎えて下さいました。「病院を一刻も早く退院されて、此方でお預かりします。」の言葉に感動し励まされての入所でした。

そして、皆さんの暖かな介護に有難く、手厚い介護が伝わり「春雄さんの居場所」は此しかないと思われ

したことを忘れる事が出来ません。本当に有難く、「感謝」の一言です。
困難を乗り越え、施設との出合があつて私も春雄さんに優しく出来る喜びを実感しています。



▽講評△

家庭とは家族が生活する場・・・と言われますが、長年連れ添った夫、妻が認知症になり介護が必要となったら。お互いを思いやる気持ちが大切とわかっていても日々積み重なる「介護」には押しつぶされそうに思います。そんな時に「春雄さんの居場所」を得られた事はご本人はじめ介護を担う家族にとって、どんなにか心強かったか、ご主人の進行して行く状況とともに心安らぐ「居場所」がご本人のみならず介護するものにとっても大切であることを改めて感じさせてくれる文章でした。

「今年の干支は？」うま」

株式会社若武者ケア 港南事業所 齋門 幸恵様

〇〇さんを訪問してそろそろ二年、脳梗塞の後遺症で言葉が出ない〇〇さん。

「〇〇さん、おはようございます。今日も良い天気ですね。出かける用意をしましょうね」と声をかけて更衣介助をするも返答はしてもらえません

別の日に入るヘルパーさんの記録をみると「おはよう」や「うなずきがある」と書かれています。私の事はきらい？介助のやり方が悪い？次はどう声掛けをしよう、どんな話題だったらいいだろう？と考えながら訪問を続けるも私に対しての返答はありませんでした。

あるお正月明けの訪問の時でした「〇〇さん明けましておめでとございます。今年もよろしくお願います」と、挨拶。いつものように介助をしながら「今年の干支はなんでしたかね？」と話しかけた時でした。〇〇さんが「うま」と応えてくれたのです。私はびっくりしたのと同時に「今何て？」と思ってもう一度聞きなおしましたが応えてはくれませんでした。

でも私にははつきりと「うま」と聞こえました。私にたいして初めての返答でした。この時のうれしさは今でも忘れられません。

あれから半年が過ぎました。問いかけに対してあの時の様にはつきりとした応えはありませんが、時折

問いかけにうなずいて下さるようになりました。
次は言葉で応えてくれる日を楽しみにこれからも訪問します。



▽講評△

いちばん難しい介護のひとつは、反応のない方へのものかもしれません。

このような場合、本当は良くないと分かっているけど、意志疎通をあきらめてしまったり、マイペースで仕事を片付けてしまったりという経験をしている介護者は案外多いと思います。

しかし齋門さんは2年近くもあきらめず努力を続けられました。「うま」とのお返事は、齋門さんにとってこのご家庭でのお仕事への答えであり今後の活力ともなるくらい大切なものだったのではないのでしょうか。

発語の数は減っていても「うま」の2文字の裏には、表現できないたくさんのお返しがつまっているかもしれません。齋門さんの問いかけでいろんな記憶がよみがえるならば、介護サービスの時間は利用する側にとって、きっと楽しいひとときになっていると思います。

特別賞

「優しさに触れて」

高橋 洋平 様

感動介護を行った事業所

社会福祉法人八寿会 特別養護老人ホームみどりの園

朝8時過ぎになると、電話のベルを待ち心になる。「おはようございます！みどりの園の〇〇です。9時にお迎えに参ります。」という明るい声で始まる朝の知らせは私の1日のスタートだ。

ホームに着くとテーブルまで、手を取って誘ってくれるスタッフの温もりには、嬉しく、ほっとする。介護される立場にいと、スタッフの心遣いに心からの感謝を「ありがとう」の言葉だけで私の気持ちに伝わっているだろうか。

お、も、て、な、し、おもてなし、、、とスピーチで滝川クリステルが話し、日本人の国民性に気付かされた。その言葉通りの深い優しさを、スタッフの皆様から頂く。それはサービスというのとは全く違う種類の温かい心を相手に捧げる日本人の素敵な行為だ。

ありがとう、ありがとう、、、又よろしくね。

特別賞

「ヘルパーさんが起こした奇跡」

棚井 聖麗 様

感動介護を行った職員

有限会社ダムダムメディカルケアサービスつきみ野
伊藤 勇樹さん、後藤 和彦さん

私は、生まれた頃から、体の不自由な祖父と暮らしている。祖父は、車いすで、ヘルパーさんがいなければ、色々な場所に出かけることはできなかったはずだけれど、ヘルパーの伊藤さん、後藤さん、その他のヘルパーさんのおかげで祖父の出身の山梨に行くことができています。そんな祖父に、今年更なる苦しみがおそってきた。それは右足の状態が悪化して、毎日見ていくうちに右足切断というところまで追いこまれていた。母やヘルパーさん達が必死に介護をしていたが、その苦勞は報われなかった。

1月の手術当日、私は立ち会いたかったが、学校があったので、立ち会えなかった。学校にいる間ずっと気になって仕方がなかった。なぜなら、祖父は色々な病気のトラブルがあり、手術中に死んでしまうかもしれないと母に言われていたからだ。結果は、手術は成功した。3月に無事退院し、祖父の実家のある山梨に、ヘルパーさん達の力をかりて、ゆくことができた。

祖父の大好きな富士山を見ながらとなりで母が泣いていた。祖父も、嬉しそうな表情をしていると私は思った。この日、母とヘルパーさんたちの介護の努力がやっと、報われたと思った。

私や母、家族だけではなく、たくさんヘルパーさんたちがみんな、祖父を思っただけでなく、神様が、祖父を助けてくれたと思っただけでなく、私を助けてくれたから、神様が、祖父を助けてくれたと思っただけでなく、私を助けてくれたから、人を助けられるような人になりたい。

佳作

「思いやり」

井上 園 様

感動介護を行った事業所

合同会社優悠

デイサービス横須賀悠々の里

道端の草木を眺めながら夫の死後十九年間手話の教室に通いました。

横浜から旧桜木町駅まで雨の日も雪の日も、聴力障害者の堅実な生活ぶりを学びました。一人暮らしで色々な福祉の恩恵を受けています。

九十四才で元気です。朝の体操が元気の源の様です。

八十五才の時腹部大動脈瘤の手術をし、それ以後デイサービスに通っています。

一日を笑顔で暮しています。

職員さんのやさしい、心暖かい態度に介護のありがたさを感じます。

「成せば成る」を常に頭におき、何事にも好奇心

を持って挑戦します。

九十四才を忘れていません。

近い内に四階のアパートに引越をします。

歩ける幸を感謝しながら一歩々々上ります。

卒寿越え

歩ける幸感謝しつつ

デーの帰りの

茜雲燃ゆ



佳作

「見られない嚥下訓練」

匿名希望

感動介護を行った職員

社会福祉法人八寿会 みどりの園

石井 絵理香さん

山田 かほるさん

妻は、三年前に脳幹出血して四肢麻痺となり、現在、みどりの園で入所生活をしている。

当初は声も出なかったが、リハビリと口から食べたいと言う本人の意欲により、発声もなんとか聞きとれる様になって、ようやく嚥下訓練が出来るまでになった。

一口量約2mlのゼリーを5回の嚥下だが、誤飲のリスクがあり、体調確認から始まり、口腔ケアとマッサージ、発声練習、舌や口の体操等の準備運動その後、ゼリーの嚥下と一口毎に口の中の残留物や気管のチェック、最後に口腔清掃と呼吸気管の確認

と、トータル30分以上の時間を掛けて、介護士と看護師の体制で進めてくれている。

アイー、口を閉じる、早口言葉、吸込み、ムンクの叫び、膨らまし、変な顔、唇をなめる、アイスクリーム体操等の運動を、「私みたいに来れる?」と言って、その様な顔をやって見せているが、当の本人は、その顔を見て吹き出して、「真似できない」と、笑って困らせている。

それでも、「和美さん、ちゃんとやって下さい、酸っぱい物をイメージして、こんなふうやって、奥歯を噛みしめて」と、顔を30cm程に近づけて、一生懸命行っている。

私には後姿しか見えないし、どんな顔をしているのか分からないが、たぶん、人様には見せられない顔をしているのでしょう。

だから私は見えない様にして、声はかけずに心の中で「ありがとう」と言って見ている。

佳作

「私とグッデイさんの出会い」

二澤 キミ子様

感動介護を行った事業所

株式会社グッデイ

デイサービスセンターグッデイ

私が身体障害者になって十年がたっていました。

ケアマネージャーさんがそんな私を心配しているんな施設を見つけてきてくれましたが、行く気になれず見にはいくも断っていました。「近くに新しい施設が出来た」と紹介されしぶしぶ見学に行くことになりました。

事前に知らせずに行こう、そのほうが本当の姿が見えると思いました

グッデイさんと言うんだ…と思いつながらドアをあけて一歩中に入ると、あれ？なんか今までの施設と雰囲気が違うぞ、みなさんが明るくすごしている。

あれ「私を待っていてくれたのかな？」という気持ちに不思議となったのです

ここなら通えるかと思いました。

家ではイスに座ったまま一歩も歩かない生活だった私がグッデイに行く様になり少しづつ動くようになりました。

しばらくぶりに台所でイスにこしかけ味噌汁を作って家族に食べさせると、母さんの味だと喜んで食べてくれました。

その嬉しかった事をグッデイさんに行って話すと皆が自分の事の様に喜んでくれました。

一日の様子を写真ノートや手帖に書いてくれるので様子がわかって家の者も安心だと言っています。

息子から一言

母の変わった所は、グッデイで教わって来た事や作品を、何度も何度も作って、嬉しそうに子供たちにも教えてとても楽しそうにしている事です。

そんな母を見ているとこのまま楽しくすごしてくれたらいいなと思います。

佳作

「真夜中のギックリ腰」

村林 正敏 様

感動介護を行った事業所

小規模多機能型居宅介護

当時、私のうちは要介護5で認知症の85歳の母と58歳の私の二人暮らしでした。母は一人で歩けず、トイレ時には私が対面で母の脇に両腕を入れバックし、ヨタヨタ歩く母をかかえて歩かせて行く毎日でした。

ある冬の夜、12時頃トイレへ歩かせていると、母が足を滑らせ廊下にペタリとすわりこんでしまいました。立たせるため後ろから脇の下に腕を入れ持

ち上げようとした時、私の腰の辺でプチッと音がし激痛が走り、私は後ろに倒れてしまったのです。やってしまった、これがギックリ腰かと思いました。痛くて母を持ち上げるどころではありません。冬なので母を朝までここに居させる訳にもゆきません。今どうするべきか必死に考え、母が通う小規模多機能型介護施設に応援を頼むことにしました。時刻は12時を過ぎていきます。いくら夜間緊急対応を謳っているとはいえためらいがありました。思い切つて電話をすると所長のAさんが出て、来てくれました。

しかし女性なので母を持ち上げられません。そこで彼女はさらに男性職員のBさんに電話をすると、自転車ですぐかけつけてくれました。二人で母をトイレに連れてゆき、寝床に運ぶまでを嫌な顔ひとつせずやってくれたのです。

私のように一人で介護をする者にとっては大変あ

りがたかったのですが、夜中の1時過ぎに職員がとんできて対応してくれたのは大変なことだったと思いい、3年経った今でも忘れられない感謝する経験でした。

佳作

「介護施設の皆様に感謝」

柳田 忠士様

感動介護を行った事業所

社会福祉法人 清流会 玉川グリーンホーム

突然訪れた異変、私達夫婦にとっては考えもしない事でした。従来お互いに健康には自信をもっておりましたし最後までピンコロを願っていましたが、後年妻が家の中で良く転ぶようになりある日玄関を上ろうとしたところ躓き手のひらが内出血をし取り敢えず整形外科に連れて行き診断の結果は膝のヒアルロンサンが不足していると云う事で、一週間に一回

ヒアルロンサンの注射を行い、併せて、電磁療法を行いましたが一向に、良くならず、病院を変え診断して頂きましたらパーキンソン病の疑いと云う事になりました。併せて整形外科によるリハビリを併行して下さいと云う事になりました。

その時リハビリを担当して頂いた療法士から介護の認定をする様アドバイスを受け早速案内に従って思案の結果玉川グリーンホームに相談現在に至っております。昨年9月8日(土) デイサービスより帰宅後夜中に脱水症状になり9月10日(月) に入院点滴により何とか生命は持ち直しましたが嚥下障害による口からの食事が不可能になり12月4日に胃ろう造設1月20日退院。

その後の介護については玉川グリーンホームの橋本ケアマネージャーが親身になって相談して頂き、退院後の訪問看護、訪問ヘルパー等を紹介して下さいまして私自身も初めての経験で大変不安を抱えて

おりましたがここ迄何とか無難に過す事が出来ました。この制度を最初に教えて頂いた高橋療法士とケアマネジャーに感謝しております。

佳作

「グリーンホームへの思い」 萩原 新太郎 様

感動介護を行った事業所

社会福祉法人 清琉会 玉川グリーンホーム

私は妻が亡くなり平成25年1月7日から、独り暮らしとなり、さみしい思いをしていました。息子と市に相談し地域包括の方が来てくれて、介護認定を受けました。ケアマネジャーさんを紹介してもらい、デイサービスに行くことになりました。毎週月曜日に運転手さんが迎えに来てくれて玉川グリーンホームへ行くようになりました。行ってみると、足の悪い人や車椅子の方々がいて初のデイサービスで、どこに座ったら良いかも分からず困ってしま

ました。しかし回数を重ねると、皆さんと会えることが楽しく思うようになりました。自分の誕生日をお祝いしてもらったときはうれしかったです。一生懸命働く職員さんを見て大変な仕事だと思いました。色々な事を学んだデイサービスでしたが足の痛みがあり通えなくなっていました。

通わなくなると止めたことを後悔し自宅にいると、さみしくて、さみしくて、早く足を治してまたデイサービスに行きたいと思いました。今はケアマネジャーさんと相談しヘルパーさんに来てもらうようになりました。家の掃除や買い物をしてとても助かります。市の配食サービスでお弁当の配達も手配してもらい温かい食事が出来て独り暮らしではお弁当が一番のたのしみです。今後の目標は足を早く治して、又デイサービスに通える様になりたいと思っています。

佳作

「心のそよ風」

匿名希望

感動介護を行った事業所

株式会社ユニマットそよ風

ケアセンターそよ風

八九歳の母は、今年の二月から週に一度、そよ風さんのデイサービスに通っています。今年に入り、入浴に”気が進まない“日が続き、介護認定、施設見学を経て、見学したフィットネスの曜日に通うことになりました。

ケアマネージャーさんは、母が元気に楽しく過ごせるようにいつもお心を配ってくださいます。母の気持ちを大切に尊重してくださいます。生活相談員さんは、母だけでなく私にまで優しい声をかけてくださいます。それは、送迎の時の”サンダルかわいいですね。“というようなさりげない一言だった

りするのですが、俯いていた気持ちが”ぼつ“と暖かくなりました。看護師さんは、お顔はわかりませんが、いつも親切に丁寧にケアしてください、体調入浴をみてくださいるので、家ではあんなに気の進まなかった入浴を、毎回して来られるようになりました。送迎にいらしてくださいるみなさん、本当に優しく接してください、いつも頭の下がる思いです。また、センター長さんまで母一人のために運転して送迎してくださいる時は、本当にびっくりして有難いと思いました。

母は食が細く、みなさんが心配してくださいるのですが、オムライスの時、ご飯をみんないただいたことを、お食事を作ってくださいる方まで喜んでくださったと伺い、そんなにも母のことを気にかけてくださっていることに驚き、感謝の気持ちでいっぱいになりました。

家に近いので、という理由で見学させていただ

たのですが、こんなに心からの介護をしてくださるそよ風さんに出会えたこと、母も私も本当に倖せだと思っています。

佳作

「無題」

鈴野 信枝 様

感動介護を行った事業所

株式会社 サロンデイ サロンデイ池上

サロンデイに入会して早や1年になろうとしております。私の楽しみは家庭菜園と洋裁ですが昨年、82才誕生日後、全てが嫌になり遣る瀬ない日々となり私がどうしてそうなったのか、どうすればよいのか分からないのです。そうしている日々が空しく不安が襲ってきました。そんなある日、クリエイト駐車場で「機能訓練サロン」と書かれた車を見て迷うことなくサロンの戸をたたきました。戸を開ける

とエアロバイクが目飛び込み、6月まで自転車に乗っていたのだからもう1度走りたいと強く思いました。体験し、内科整形医に許可を頂き、入会となり家族には事後報告になる程、前向きな気持ちでした。9月9日送迎して頂きサロン前では所長、指導員を始めスタッフ一同の満面の笑みで迎え入れて頂きました。テーブル席へ着いてクラスメートに出会い、私と同じように悩んでいる人、頑張っている人がいることを知った時の嬉しさは一生忘れることはないでしょう。それからは月旺木旺が待ち遠しくて仕方ありません。また私は高血圧症で20年余り悩んでおりましたがサロンでは3度の血圧測定があり3度目は下がっているのです。昨年血圧、脈拍が高くなった時にアドバイスを頂き内科で薬を替えて頂くことで大事に至りませんでした。健康チェックをして頂き心より楽しく感謝しております。また素晴

らしい仲間との出会いにより心の張りを与えて頂い
たことを重ねて感謝いたします。



▽第3回かながわ感動介護大賞 応募作品の総評△

本年度から、かながわ感動介護大賞の応募資格に「介護サービスを行っている職員」を加えさせていただきました。今回の応募総数は55件。ご本人から30件、ご家族から17件、そして、介護職員の方からの応募は8件でした。さらに、最優秀賞と優秀賞の対象とはなりません。応募資格以外の方の応募も受け付けています。感動介護大賞の趣旨をご理解いただき、様々な立場の方に応募していただければ幸いです。（詳しくは、神奈川県ホームページをご覧ください）

感動介護大賞も今年で3年目となりましたが、初めて小学生のお孫さんからの応募がありました。また、100歳に近いご高齢の方からの応募もありました。エピソードの内容だけでなく、応募者の幅広い年齢からも少しずつ感動の輪が広がっていることが感じられました。そして、今回の応募作品を読ませていただき、何気ない日々の積み重ねの中にこそ、大切なものが眠っているのかもしれないと感じさせられました。

かながわ感動介護大賞表彰選考会座長 峯尾 武巳

○かながわ感動介護大賞表彰選考会委員名簿（◎…座長）

東海大学 准教授

東 奈美

特定非営利活動法人

神奈川県介護支援専門員協会 副理事長

石田 貢一

公益社団法人 神奈川県社会福祉士会

福祉サービス第三者評価事業運営委員会 副委員長

高島さち子

神奈川県介護福祉士養成校連絡協議会 会長 豊田 宗裕

田園調布学園大学 講師

増田いづみ

神奈川県立保健福祉大学 教授

◎峯尾 武巳

○かながわ感動介護大賞実行委員会（構成団体）

社会福祉法人神奈川県社会福祉協議会

一般社団法人神奈川県高齢者福祉施設協議会

一般社団法人神奈川県老人保健施設協会

公益社団法人横浜市福祉事業経営者会

川崎市老人福祉施設事業協会

公益社団法人神奈川県社会福祉士会

公益社団法人神奈川県介護福祉士会

特定非営利活動法人神奈川県介護支援専門員協会

神奈川県介護福祉士養成校連絡協議会

公益社団法人かながわ福祉サービス振興会

公益財団法人神奈川県老人クラブ連合会

神奈川県立保健福祉大学

株式会社テレビ神奈川

株式会社神奈川新聞社

横浜エフエム放送株式会社

神奈川県保健福祉局

○かながわ感動介護大賞スポンサー企業（50音順）

株式会社テレビ神奈川

工藤建設株式会社

トヨタカローラ横浜株式会社

横浜エフエム放送株式会社

○かながわ感動介護大賞協賛企業（50音順）

株式会社えひめ飲料東京工場

株式会社ガスター

株式会社安江設計研究所

株式会社八千代銀行

城南信用金庫

瀬戸建設株式会社

東海アルミ箔株式会社

東洋羽毛首都圏販売株式会社

○かながわ感動介護大賞協賛団体

一般社団法人神奈川県高齢者福祉施設協議会

一般社団法人神奈川県老人保健施設協会

神奈川福祉事業協会

川崎市老人福祉施設事業協会

公益社団法人神奈川県介護福祉士会

公益財団法人神奈川県老人クラブ連合会

公益社団法人かながわ福祉サービス振興会

公益社団法人横浜市福祉事業経営者会

社会福祉法人神奈川県社会福祉協議会

日本労働組合総連合会神奈川県連合会

○かながわ感動介護大賞協賛法人（50音順）

一般財団法人シニアライフ振興財団

一般社団法人横浜市保土ヶ谷区医師会 保土ヶ谷区医師会訪問看護ステーション

医療法人 社団相和会 浏野辺総合病院

株式会社朝日ケアコンサルタント オーシャンプロムナード湘南

株式会社アトリエ・ヒロ ヒロケアプランサービス

株式会社エクシオジャパン

株式会社グリーンズ片塩 グリーンズ片塩・小和田

株式会社ケアバンク ラベンダーケア

株式会社サロンデイ

株式会社翔栄 メープル訪問介護

株式会社白寿会 シルバーライフ はなみずぎ

株式会社花菱 ケアステーション・花菱

株式会社リフレ リフレ油壺

株式会社若武者ケア

合同会社MKウェルフェア デイサービス集い場『想』

シニアウイール株式会社

社会福祉法人足柄福祉会 特別養護老人ホーム草の家

社会福祉法人厚木慈光会

社会福祉法人育生会 よつば苑

社会福祉法人一石会 特別養護老人ホーム白鷺苑

社会福祉法人一燈会

社会福祉法人永寿会 特別養護老人ホームかりん

社会福祉法人小田原福祉会 特別養護老人ホーム潤生園

社会福祉法人恩賜財団済生会支部 神奈川県済生会

社会福祉法人恩賜財団神奈川県同胞援護会

社会福祉法人神奈川県社会福祉事業団

社会福祉法人鎌倉静養館

社会福祉法人共生会
社会福祉法人くすのき 特別養護老人ホームメイサムホール
社会福祉法人栗山会 特別養護老人ホームやまびこ荘
社会福祉法人恵愛会 介護老人保健施設四季の森
社会福祉法人敬心会
社会福祉法人啓生会 特別養護老人ホームはまゆう
社会福祉法人幸済会 特別養護老人ホームかわしまホーム
社会福祉法人心の会 特別養護老人ホームさくらの里山科
社会福祉法人三栄会 特別養護老人ホームベルホーム
社会福祉法人湘南福祉協会
社会福祉法人清琉会 玉川グリーンホーム
社会福祉法人セイワ 介護老人福祉施設みやうち
社会福祉法人積善会 ルビーホーム
社会福祉法人多心会 特別養護老人ホームひまわりの郷
社会福祉法人たちばな福祉会 老人デイサービスセンター芙蓉の園
社会福祉法人竹生会 芭蕉苑介護老人福祉施設
社会福祉法人中心会
社会福祉法人道志会 道志会老人ホーム
社会福祉法人藤心会 特別養護老人ホームふじの郷
社会福祉法人東洋会
社会福祉法人藤嶺会 特別養護老人ホーム弥生苑
社会福祉法人日本医療伝道会
社会福祉法人子の神福祉会
社会福祉法人百鷗 葉山清寿苑
社会福祉法人ハマノ愛生会
社会福祉法人東の会 特別養護老人ホームみたけ
社会福祉法人福寿会 特別養護老人ホーム村岡ホーム
社会福祉法人富士美 高齢者総合福祉センターヒューマン
社会福祉法人二津屋福祉会 ロゼホームつきみ野

社会福祉法人母子育成会
社会福祉法人松緑会 松みどりホーム
社会福祉法人三崎二葉会 ケアセンター南下浦羊の家
社会福祉法人大和清風会 サンホーム鶴間
社会福祉法人湯河原福祉会 シーサイド湯河原
社会福祉法人横浜市福祉サービス協会
社会福祉法人横浜長寿会 特別養護老人ホーム上郷苑
特定非営利活動法人愛コープ港北
特定非営利活動法人加齢ライス ほのぼのほーむ
有限会社みどりケアサービス みどりケアデイサービス

—ご協賛いただきありがとうございました—

随時受付中！

かながわ感動介護大賞 感動介護エピソード募集

今度はあなたの「感動」介護のエピソードを
伝えてみませんか！

応募は随時受け付けています。

また、今年度より職員の方の
「感動」介護のエピソードも対象となりました。

ご応募お待ちしております。

※詳しくは、

県ホームページ

「かながわ感動介護大賞エピソード募集」

をご覧ください。

